

りし甲の城より夢をうきし甲州武由勝頼
三州長篠の戦敗軍の時父信玄公も敗北の時彼曉鑿
を捨てあつて山中に隠れてあつたやうにうける
あつたり又下筋に筑保は利都の沖川城といふやう
古蹟あり義家往古跡とせりといふといふ所を越
て矢野川といふ所より貞任が村新川風よく吹揚がた
て飛ぶといふ一昨夜陣貞任ぬけて三峰山に陣
取りし其時義家少敵のときと申す入陣より
三日過ぎたため（国）もあつたけし貞任幸仕三峰山に

大石と名する城を造り海を流し梅ヶ陣よりまぬ
を以て六月朔日紅雲とて大降降し貞任之方と候
即ち皆氷餅を食ひ寛くして居る所義家世機
を思ひ嘆と指させ改めしを貞任之方軍に利あり
敗れしを以て因縁より却意より氷餅をとくとい
ふ諺ありといふけしはけしはけしといふおね國ハ
定國より十月末よりを流ししに依り義家三
冬より越えし陣より一陽未復の天を待ちて軍なり
といふより貞任があつた梅現よりけし之言をうけて